

東日本大震災 沖縄民医連 支援ニュース

第8号 2011年3月25日(金) 電話:098-833-3397

第1陣支援団 県に報告と要請(裏面に掲載)



24日(水)県庁医務課を訪ね、被災地での支援活動の報告と今後の中・長期的な支援のあり方で、要請と懇談をしてきました。第1陣支援団5人に高嶺医師(とよみ)、嘉数医師、向井薬剤師(沖協)、宮里薬剤師(メディコープ)も同席しました。

医務課 医療対策班長及び医務看護班長が対応。沖縄民医連の迅速な対応と現地での活動に敬意を表してくださいました。原国医師・与儀看護師・新垣潔団長が支援活動の生々しい報告をしました。県は、「東日本大震災支援協力会議」を立ち上げ、民間も含め100団体会議設立へ動き始めました。この動きにも協力・協同して県民一体で被災地を支えていくことを確認できました。

同席した高嶺医師(とよみ)からは、透析患者の受け入れでは、とよみ生協病院で20名(付き添う家族含め)可能と提案しました。また、チラーチン(甲状腺ホルモン剤)の製造工場は、生産ラインが被害を受け、国内での生産が完全ストップしている状況が、メディコープ宮里薬剤師、沖協薬局長向井薬剤師より報告され、沖縄でも入荷の見通しが立たない状況が発生していること、嘉数健二医師(沖協小児科)からは、小児から成人まで治療中の患者にとっては、「命」の危険も出てくる状況を説明し、早急に国(厚労省)への対応要請をお願いしてきました。(与儀幸子)

第3陣が現地到着、ただちに支援活動

今日の割り振りは…石井先生はER日勤。犬尾先生は1日避難所廻り。他3名は同じ班で、今日から新たに取り組み始めた被災地域廻り(主に塩釜地区)でした。医師・看護師・事務で1班となり、直接地域・自宅へ訪問して、声かけ・医療相談や健康状態の確認などが主でした。初めての取り組みのためまだまだ手探りでの訪問でしたが、午後も引き継ぎ向かいます。

(沖縄救援隊ブログ:比嘉佳寿)

全日本民医連が4月からの救援活動の基本方針を提起!

全日本民医連東日本大震災対策本部が23日、4月からの全国支援についておおよそ以下のように提起しています。正式には、4月2日の臨時理事会で確認されますが、県連としてもその方向ですすめます。

- ①引き続き、全日本民医連事務所に対策本部を置き、支援の人と物の管理を集中して各県連対策本部と連携を密にし、多くの団体と協力して活動をすすめます。
- ②これまで坂病院を拠点としてそこから支援を行ってきましたが、宮城では4月1日を目処に「坂病院」、「長町病院」、「松島海岸診療所」の三拠点とし、それぞれ全日本民医連の役員・理事などが当該県連と協力し、センターを設けます。支援物資や支援者の必要数も整理し、全日本民医連から発信していきます。具体的には、4月1日以降、支援先は原則、以下のように振り分けます。
 - 坂病院:北海道・秋田・青森各県連、九州沖縄地協、中国四国地協、関東地協
 - 松島海岸通診療所:北関東・甲信越地協、山形県連
 - 長町病院:近畿地協、東海・北陸地協⇒体制の提案で、九州沖縄地協は、4/11~4/20となっていますので、予定していた第5陣(3/30~4/5)は、4/11~4/20の中の1週間を計画します。